２０２３　vol.23

きこえにくい子を指導する方に知ってほしいこと

基礎コース

長崎県立ろう学校
自立活動部

難聴乳幼児の言葉の発達を促すために

１　共感するコミュニケーションを大切にする

子供が泣いていたら「どうしたの」「どこか痛いの」と、言葉が通じなくても近づいて話し掛けると思います。この子供が何を感じているのか、こちらから近づいていく気持ち、相手に共感することがコミュニケーションの原点でしょう。子供の気持ちを汲み取り、それに近づくような言葉掛けをしていきましょう。

２　生活習慣を確立する

朝、決まった時間に起き、身だしなみを整え食事をし、保育園などで過ごすというリズムはとても大切です。なぜなら、毎日繰り返すことで明日の予測ができるようになり、記憶も作られやすくなるからです。この予測したことと記憶したことが、後から言葉で表現する土台を作っていくことになります。近所の人や保育園での挨拶なども含めて、基本的生活習慣を身に付けましょう。

３　無理に教え込まない

子供は好奇心の塊です。教えなくても興味はあるのです。逆に興味を引き出すような接し方をすると、自然に言葉に近づこうとします。例えば、おやつにりんごを食べるとします。わざと黄色と赤のりんごを用意しておきます。子供は色の概念、同じ種類という概念に気付くかもしれません。子供の興味に寄り添って意識して接するようにすると、子供の脳は開花していくでしょう。

４　実体験を豊かにする

人は経験を通して大脳に多くの蓄えができるように作られています。その日、初めて電車に乗ったとしたら、絵本でもう一度話題にするとか、撮ってきた写真を見ながら話題にするとか。実際にやってみたことを話題にして言葉の世界を広げましょう。

５　もの以外の言葉（動詞など）や感情表現に気を配る

難聴児にとって動詞や感情を表す言葉の習得は難しいと言われています。理由は簡単で、ものは目の前にあって何度も見ながら繰り返し声掛けしやすいのに対して、空を飛ぶなどの動詞は実際に体験できることにも制約があり、まして感情となると目に見えないのでピンとくるまで時間が掛かって当然です。けんかして悔しい、いじわるされて悲しい、ケーキを食べてうれしい、子供は必ず何か感じています。その気持ちを流してしまわないように、その場面をとらえて言葉につなげてあげましょう。

6　本人に考えさせる、言わせる話し掛け方を工夫する

「これは〇〇よ。」と、ついつい教え込んでしまいがちになることがあります。例えば食べたりんごがおいしかったとします。子供が何かを感じて言いたいことがありそう、そこまで子供の様子を見てから「おいしいね」と表現すると、子供は「あ、この感覚がおいしいということなんだ」と理解するでしょう。子供が何かを感じた後に、せりふを付けていく気持ちで言葉を添えましょう。

7　繰り返しの手法を取り入れる

ある程度言葉の数が増えてきたら、繰り返しの手法は大事です。例えば、明日ホットケーキを作るとします。前の日に絵本でホットケーキ作りを予測させておきます。当日、ホットケーキを作ります。実体験ですから話の題材はいくらでもあります。子供の印象に残ったと思われることを覚えておきましょう。その後、ホットケーキ作りの思い出話をします。「あのときびっくりしたね」とか、「ひっくり返したら真っ黒だったね」とか。つまり復習です。このように、予習、実習、復習と３回繰り返すことで、言葉がありありとした意味を伴って脳内に蓄積されていくことになります。

8　本が好きな子供に育てる

耳からの情報は、聞こえた瞬間には消えてしまう情報です。一方、文字は残ります。目で何度も追うことができ、繰り返し見て確認することができます。昔話は世の中の理の宝庫です。良い人と悪い人がでてきてはらはらするけど、最後に悪い人が懲らしめられる。こんなことはしてはいけないんだと、社会のルールに気付いていく仕組みも昔話がもつ役割と言えるでしょう。

さいごに

聞こえなくても社会的に自立し、かつ社会的な役割を担って活躍している人はたくさんいます。コミュニケーション言語を土台に、就学後は読み書き能力を確実に身に付けていくことが社会生活を送っていくために大切な条件になるでしょう。

引用文献：『きこえのハンドブック』難聴児保護者のための教育講座
秋田県健康福祉部保険･疾病対策課発行著　飯川延子（秋田大学医学部付属病院）